

青ヶ島

二重式火山でできた
世界でもめずらしい島



青ヶ島はどこにあるの？

位置：都心から南に358km

面積：5.96km²

アクセス

航路：竹芝－八丈島（東海汽船）大型客船で約10時間20分 → 八丈島－青ヶ島（伊豆諸島開発）連絡船で約3時間

空路：八丈島空港－青ヶ島ヘリポート（東邦航空）ヘリコプターで約20分

AOGASHIMA

OGASAWARA Islands



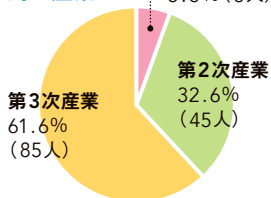
information

島の人々

人口：178人

世帯数：125世帯

島の産業



公共施設

役場：1

医療機関：1

小学校：1

中学校：1

青ヶ島村の特産物

水産生鮮品：トビウオ、キハダ

水産加工品：トビウオ燻製、塩辛

農林産生鮮品：黒毛和牛、サツマイモ、トウガラシ、フェニックス・ロベレニー、オオタニワタリ

農林産加工品：焼酎、ウコン粉末、島だれ

鉱産品・その他：海塩

青ヶ島村のシンボル

花：タメトモユリ

木：タブノキ（イヌグス）

鳥：クロバト（カラスバト）

魚：クジラヨ（テンジクイサキ）

「青ヶ島のモーゼ」と呼ばれる
英雄・佐々木次郎太夫の碑。





絶海の孤島

青ヶ島は有人島としては伊豆諸島最南端にある島で、人口は178人。国内で最も人口の少ない地方自治体です。島へのアクセスは、八丈島を経由して船かヘリコプターを利用。どちらも就航する場合は1日1往復のみ。ただ、青ヶ島の波高は、年間平均で約2m、冬季は5〜6m、台風通過時は10m以上にもなります。厳しい海象条件のもと、船便の就航率は約5割にとどまり、ヘリコプターで八丈島を出発しても、青ヶ島上空の視界不良により引き返すこともあります。

アクセス困難な青ヶ島ですが、2014（平成26）年には、アメリカの環境保護NGOの「One Green Planet」が発表した「死ぬまでに見るべき絶景13」に日本で唯一選ばれました。世界でも珍しい二重カルデラ構造や、美しい満点の星空を見ようと、外

国からの観光客も増えています。

火山の歴史と還住精神

青ヶ島の人々の生活は、火山とともにありました。1780（安永9）年から発生した火山活動によって、人々は青ヶ島で生活することができなくなり、八丈島へ避難しました。避難生活は半世紀にも及び、その間、何度も帰島を試みるも、船が遭難・難破したり、島に辿り着いても、噴火の影響で水や物資が不足したりするなど問題が山積でした。そんな中、1817（文化14）年に青ヶ島の名主となった佐々木次郎太夫（じやうたう）が、帰島に対する強い意志と熱意を持って困難を克服。この不屈の精神で帰島を果たしたことを「還住」という言葉で表し、その精神は島の人々に受け継がれています。

八丈島 ↔ 青ヶ島
間を往來する「あお丸」。

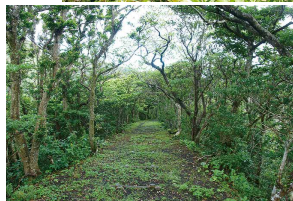


島の子どもたちから「プリン」と呼ばれている丸山。



二重カルデラと地熱蒸気が噴き出す噴気孔「ひんぎゃ」

青ヶ島には、1785（天明5）年の大噴火で隆起した大小二つの旧火口があり、二重カルデラ構造をしています。カルデラの中央には丸山という内輪山があり、丸山を取り囲む外輪山の北西には島の最高地点である大凸部（標高423m）があります。厳しい自然環境の中、外輪山は台風などの暴風雨を防ぐ役割をしてくれています。



一周約30分程度で散歩できる丸山遊歩道。季節の草花や鳥たちを観察しながら歩くことができます。

「ひんぎゃ」とは、「火の際」が語源となっている青ヶ島の言葉で、火山の地熱蒸気が吹き出す噴気孔のこと。丸山周辺の池之沢では、一年を通じていたるところで地熱蒸気が噴き出しており、電気のない時代には、暖房や料理に利用されていました。



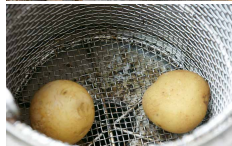
「ひんぎゃ」と呼ばれる水蒸気の噴出する穴が無数に見られる。

地熱を利用した青ヶ島の特産物と施設



食材を蒸して食べられる地熱窯

地面から噴出する蒸気を利用したワイルドな蒸し釜です。卵やくさや、イモなどを窯に入れるだけでOK。待ち時間にふれあいサウナに入っていれば、あっという間に出来上がりです。



「ひんぎゃの塩」カルシウムが豊富でまろやかな味わいが特徴。



地熱で海水を蒸発させ塩を作る。



株式会社
青ヶ島製塩事業所
山田アリスさん

ひんぎゃの熱を利用したサウナ

サウナ室の温度は約60度。自然の熱であるため、日によって温度・湿度が多少異なります。観光客はもちろん、村民のふれあいの場にもなっています。



100%天然の自然海水塩

「ひんぎゃの塩」は、地熱蒸気と海水のみで作られる塩。現在は、島出身の塩職人・山田アリスさんの手によって作られています。海水が結晶化して塩になり、それが商品になるまで約4週間かかります。

星空観察三大スポット

地球を形取った青いタイル張りの円形モニュメントが目印の尾山展望台。



写真：井川俊彦



大凸部



尾山展望台



池之沢

青ヶ島は、どこからでも素晴らしい星空を望めますが、特におすすめなのが、島で最も標高が高い「大凸部」(標高423m)、空も海も視界360度の「尾山展望台」(標高400m)、そして二重カルデラ内で風が穏やかな「池之沢」の3スポットです。青ヶ島では10月下旬～4月上旬にかけて、「カノープス」という南天の水平線ギリギリのところを姿を現す、北半球では珍しい星を見ることが出来ます。星空観察を目的にするなら満月を避け、新月前後の4～5日ぐらいに日程を組むのが理想的です。天の川の観察も期待できそうです。

青ヶ島に伝わる伝説と神社

青ヶ島 — AOGASHIMA

江戸時代に失恋の腹いせに7人を殺傷して自殺した男性の霊を鎮めるために建立された神社。今では縁結びの神様として信仰を集めています。

東台所神社



鮮やかな赤色の社。

大里神社

島の総鎮守。1,300個の玉石が敷き詰められた300余段の急崖の石段を上った先には、祭祀が行われていた2カ所の石場があります。「上の石場」には約20社、「下の石場」には約30社の石宮や小さな祠があり、鳥居の正面に鎮座する「上の石場」の主祭神はオオナムチノミコトであることが1965(昭和40)年の民俗調査でわかりました。また、社殿には、1966(昭和41)年頃まで使われていた「でいらほん祭」の仮面(男の鬼面と女面)が安置されています。



二重式外輪山の頂上にある。



ハリボートの北側にある神社。

金毘羅神社

天命の大噴火で避難した八丈島から帰島する際、船頭が渡海安全を祈願。事故がなかったことから、金比羅大権現を勧請したとされています。

青ヶ島酒造で試飲できる13種類の青酎。



晩秋にサツマイモを収穫 → 麦麴用の大麦を蒔く → 初夏に大麦を収穫 → サツマイモの苗を植えて収穫を繰り返す。

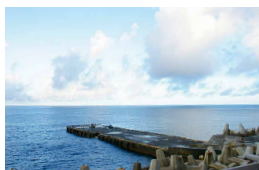
重要な温度管理。麴菌の発酵温度が上がり過ぎると、オオタニワタリの葉っぱが焼けてしまう。



幻の焼酎「青酎」を作り続ける杜氏たち

青酎は、元々は妻が夫のために作る家庭のお酒でした。島特産のかんも（サツマイモ）を収穫したあとに、麦麴用の大麦を栽培するなど、青酎造りは畑仕事から始まります。大麦は干したあとに鍋で炒り、麦麴を造る際はオオタニワタリの葉を使いながら温度管理を行います。杜氏によって分量や造り方が異なるので、出来上がった青酎の味はそれぞれに特徴があります。また、ほとんどの工程を人の手でやっているため大量生産ができないことから、幻の焼酎といわれています。

青ヶ島酒造 合資会社
奥山 晃さん



島の南西部に位置する港。



船を吊り上げるクレーン。



台風通過時は10m以上の波も！

青ヶ島の海の玄関口、青ヶ島港（三宝港）

青ヶ島唯一の港。八丈島間を往来する小型定期船が発着し、島民の生活を支えています。2000年度まで日本で唯一、はしけ作業が行われていましたが、断崖絶壁の岩の隙間に港が整備されました。ただ、漁船を停泊させる場所がないため、クレーンで船を吊り上げ陸上に保管しています。



前夜祭の打ち上げ花火から始まる「牛祭り」。

青ヶ島年間最大の行事！牛祭り



体格・体積があり、均衡の良い和牛を競う品評会。

古くから畜産で栄えてきた青ヶ島では、牛への感謝をこめて、毎年8月10日に「牛祭り」を開催しています。牛の共進会（品評会）が開催されるほか、90kgほどの丸石を持ち上げる力自慢大会や遷住太鼓の演奏、花火の打ち上げ、全員参加の島踊りなどのイベントも実施されます。島外にいた村出身者もこの日に合わせて帰省してくるため、島内は一斉に賑やかになります。



島の最北端に広がる草原。



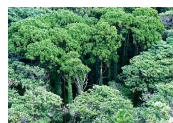
八丈島 ↔ 青ヶ島間を約20分で結ぶヘリコプター。



八丈島方面を見渡せる眺めの良い場所。



御富士様丸山にある神社。昔は、火山の噴火を恐れ、喪中の人などは不浄とされ池之沢に足を踏み入ることができなかったが、ここに神社を建て慣習を改めた。



丸山遊歩道から見える鬱蒼とした森。



オオタニワタリ群生地
南方系のシダの一種の「オオタニワタリ」。
島内の岩の上や樹木に数段になって着生して
いて、3月から5月が芽吹きシーズン。

島内アクセス

レンタカーのみ

島の窓口



青ヶ島村総務課

〒100-1701
東京都青ヶ島村無番地

島めぐりコース

【1日目】

午前 青ヶ島ヘリポートに到着 → 大凸部（島の最高峰423m）から島の大自然を一望 → 島内には飲食店がないので宿泊する民宿で昼食（要予約）

午後 青ヶ島港（見学）→ 丸山遊歩道（散策）→ 池之沢噴気孔群（ひんぎゃ）※地熱窯に食材を入れて蒸している間にふれあいサウナでサウナ体験 → 青ヶ島酒造見学（要予約）→ 夕食後、星空観察

【2日目】

午後 神子の浦展望広場 → 島内を散策、お土産など購入 → 青ヶ島港から出港